

「何かあったらここにおいで」地域の施設が 子どもの居場所に！

社会福祉施設を活用した 子どもの夜の居場所“フリースペース”

目的

なにを目的にした、どんな事業か(概要)

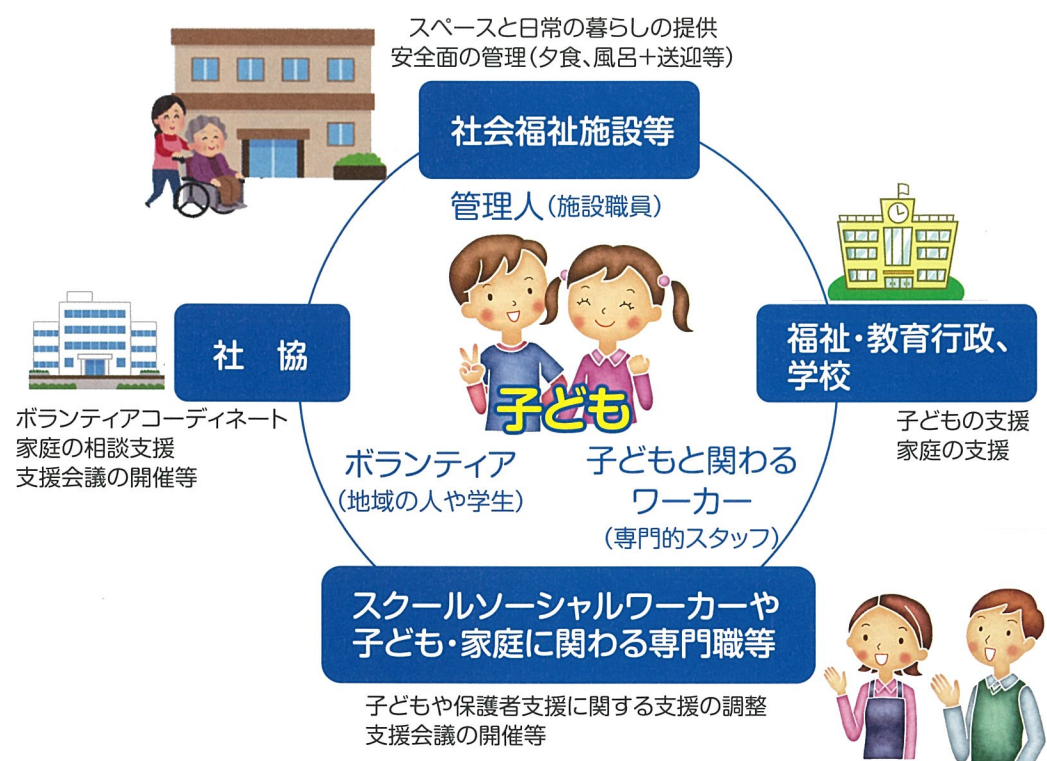
地域のなかには、さまざまな事情から学校に行きにくくなっていたり、家庭の中に安らぎがなかったり、また子どもらしく大人に甘えることができないといった状況にある子どもたちがいます。こうしたさびしさやしんどさを抱えている子どもたちを見守ってくださっている地域の方たち、関係機関の方たちからは、地域で子どもを支える場がもっとも必要という課題提起があがっていました。

フリースペースは、24時間人がいて、あたたかいご飯があって、お風呂がある地域の社会福祉施設を拠点に、さびしさやしんどさを抱えている子どもが、安心して信頼できる大人とのびのび過ごせる夜の居場所です。

県教育委員会が市町に配置したスクールソー

シャルワーカーや子ども・家庭にかかわる専門職がフリースペースへのつなぎ役となり、保護者や子ども支援にかかわる関係機関と利用の調整を図ります。フリースペースにつながった子どもは、週に1回夕方から夜の時間を地域のボランティア等の大人と1対1のかかわりの中で過ごします。ボランティアでは対応が難しく、個別的なかわりが必要な場合は、子どもとかかわるワーカーが対応します。

子どもの背景にある家庭の困りごとやボランティアの発掘、呼びかけは地元の社協や行政と連携するなど、困っている子どもを真ん中において、高齢や障害等の社会福祉施設、スクールソーシャルワーカー、地域のボランティア、社会福祉協議会、学校、教育・福祉行政等がひとつの運営チームをつくり実践しています。



エピソード 活動者の声

子どもの思いに寄り添い、「指導」ではないかかわりのなかで、安心感や安全感を子ども自身が感じています。そして生まれたこんなエピソード。

●エピソード①

～フリースペースから将来の一步～

進学を諦めていた中学生の女の子が、「高校に行けるんなら行きたい」「高校に行ってもここにくる」と伝えてくれました。そして、彼女から「働いてみたい仕事ランキングの第3位は、カーサ(特別養護老人ホーム カーサ月輪:拠点施設)かな」と一大発表。いつも一緒にフリースペースの時間を過ごしている施設の職員さんが、身近なあこがれに。

●エピソード②

～だんだん学級に入れるように～

過去にいじめを受けた経験や複雑な家庭状況により、学校に行きにくくなっていた小学生の男の子が、相談室に行けるようになり、だんだん学級にも入れるようになってきました。運動会や修学旅行等の学校行事にも、本人のペースで徐々に参加できるように。学校では先生にフリースペースの話をしたり、フリースペースでは学校での出来事も話してくれる機会が増えてきました。

●エピソード③

～素直に謝れるように～

フリースペースの振り返り会議で、学校の先生からともうれしいお話が届きました。今までなかなか素直に謝ることができなかった男の子が、学校で「ごめんなさい」と言えたのだそうです。親御さんと先生、そして地域のボランティアさんも自分のことを大事にしてくれるという安心感やうれしい気持ちが、もっともっと増えるとういと思います。

●エピソード④

～大家族のあたたかさ～

小規模施設でのフリースペースは、施設を利用しているお年寄り子どもとの距離が近いのが特徴です。高齢の方ならではのゆったりとした空気が子どもの気持ちにぴったりと合い、お互いにフリースペースの時間が楽しくなっています。

●エピソード⑤

～食べられなかった料理が食べられるように～

施設の夕食ではなかなか普段の生活では食べていない「普通のおかず」が出てきます。ご飯とおつゆ、そしておかずをゆっくりといただくという生活の経験ができる場となっています。「ごちそうさま」と食器を返しにいけるようになった子どもたちがいます。

●エピソード⑥

～ボランティアの方たちも気負わず、のびのび～

「私にできるかしら…」とちょっと不安を抱えながら、「子どもの笑顔は素敵!笑顔が出る場をいっしょにつくろう」とボランティアとして活動に参加してくださっている、地域の方たち。1週間に数時間の時間をつくってくださるなかで、子どもの喜怒哀楽を受け止め、子どもの内面を気にかけていただいています。SOSをキャッチするアンテナをもつ地域の人が増えてきているのだろうと思います。

●エピソード⑦

～さすが福祉の職場で働く方たち!～

施設のボランティアコーディネーターや生活相談員、ケアマネジャーとして活躍している職員さんたちが、地域とともにある社会福祉法人の職員として「子どもたちのために安心して楽しい居場所をつくりたい!」と施設長に提案され、法人として責任をもって活動に取り組もうと動きだした施設があります。社会とつながる職員チームをつくられた施設もあります。福祉を志す人たちの思いが制度の枠を超えて実現できる職場を増やしていきたいと思います。